
このろくでもない、すばらしき世界・・・

千住夏樹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

このろくでもない、すばらしき世界・・・

【Nコード】

N0171L

【作者名】

千住夏樹

【あらすじ】

仲間たちはもう既に彼のことなど忘れ去ってしまったのだろう。

10億光年を共に旅した仲間たち・・・かの地に降り立ち、あるものは王になり、あるものは神になり、あるものは巨大な石の建造物を幾つも残し、そして、あるものは更なる星を目指し・・・。

彼は雑踏の中で何度も空を見上げてはため息をついた。

足早に通り過ぎて行く人の群れ、小脇にケーキの箱を大事そうに抱えたサラリーマン・・・薄れてゆく記憶の断片・・・。

薄っぺらいイルミネーションに飾られた、偽りの好景気に沸き立つ街の片隅で、路地裏で、彼はその日の糧を漁っては、空を見上げまた一つため息をついた。

四角く切り取られ、星空すら霞んで見えないこの街の雑踏を彼は今日も彷徨う。

多くのものが彼に従い、彼の啓示を待った。 栄光の日々の記憶・
・掌、そして足首に残る曖昧な痛み、ロンギヌスの槍・・・復活・
・・・。

仲間たちはもう既に彼のことなど忘れ去ってしまったのだろう。

10億光年を共に旅した仲間たち・・・かの地に降り立ち、あるものは王になり、あるものは神になり、あるものは巨大な石の建造物を幾つも残し、そして、あるものは更なる星を目指し・・・。

かつて彼の先祖たちはこの地に降り立ち、無知な類人猿に火を与え、道具を与え、知の光を与えた。

彼はその中でも最もかの地の人々の尊敬を一身に集め、かつては神の子と称えられた日々を生きたのだ。

ベツレヘム・・・そして、満天の星空と干し草の匂い。

それが、今では多摩川の川原で何人かのホームレスと一緒に日々の糧すら不自由する生活。

髪は抜け落ち、痩せ細った顔は薄汚れ、ボロボロの寒さをしのぐための何枚も重ね着した衣服、行き交う人は彼を一瞥し、哀れみの視線を投げ、足早に去ってゆく……。

彼にはもう何も残ってはいない。一欠けらすら……なんの見返りも望むことなく、与えられるものは全て与え、剥ぎ取られ、捨て去られたのだ。

かつての栄光の記憶だけが彼の生への拠り所なのだ。しかし、その記憶すら今は定かではない。

時折生きる屍となった彼の視線の先に無垢な子供の視線が交差する。

その子は哀れな年寄りに持っていたチョコレートの一辺を与えようと差し出す。

彼の瞳が一瞬輝き、その子は驚いたように後退りする。母親が駆け寄り、乱暴に子供を彼から引き離す。

彼は瞬く間にその子にこの星の栄華衰退を垣間見せたのだ。

しかし、もう既にその瞳には知の光は消えうせ、一介のホームレスの澱んだ瞳があるだけだ。

「おつつ、いたいた。ほらほら、イエスさん、お宅の定番だよ」

二人のホームレスが彼の脇を抱え、何人かが、彼らを取り囲んだ。

「なんで、イエスさんと呼ばれてるんだよ、この爺さん？」

「なんでも、死が近い仲間たちがこの爺さんに傍にいてもらいたがるんだってさ」

「だから、なんでイエスなんだよ？」

「この爺さんに手を握ってもらうと、痛みが消えて、安らかな笑顔

になるそうだよ」

彼らはみすばらしいダンボールで継ぎ接ぎされた小屋の一角に彼を導き入れた。

「ほら、ほら、婆さん・・・連れてきたよ、イエスさんだよ」

皺だらけの頬が一瞬微笑んだように見えた。

「やばいよ、救急車呼んだほうがいいんじゃないの・・・」

老婆はホームレスの言葉に僅かに首を振った。

老婆の傍に跪き、イエスと呼ばれた男はその老婆の手を取り、自分の薄汚れた頬に近付けた。

老婆の青白い顔に赤みが差し、それはこの老婆の悲惨な半生の終焉を意味した。

目脂だらけの閉じられたままの瞳から涙が一筋流れた。

一瞬、老婆の顔が輝くほどに美しかったあの頃の面影を宿し、無垢で純粋な瞳を老人に向けた。

老婆の口元がこう呟いた。

「ア・リ・ガ・ト・ネ・・・」

安らかな笑顔を残し、老婆は逝った。

誰もがその安らかな老婆の死と、そして、この薄汚い老人を交互に見つめ、その奇蹟を思った。

彼は、その場を離れ、曇天の空を暫く眺めた。

一片の雪が彼の額に落ちた。

自分の二千年の人生を想い、薄れてゆく記憶を辿り、呟いた。

「・・・このろくでもない、すばらしき世界・・・」

<了>

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0171/>

このろくでもない、すばらしき世界・・・

2010年10月13日12時06分発行